



Title	阪大法学 55巻 総目次
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2006, 55(6)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/54793
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

号	頁	通頁
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12
13	13	13
14	14	14
15	15	15
16	16	16
17	17	17
18	18	18
19	19	19
20	20	20
21	21	21
22	22	22
23	23	23
24	24	24
25	25	25
26	26	26
27	27	27
28	28	28
29	29	29
30	30	30
31	31	31
32	32	32
33	33	33
34	34	34
35	35	35
36	36	36
37	37	37
38	38	38
39	39	39
40	40	40
41	41	41
42	42	42
43	43	43
44	44	44
45	45	45
46	46	46
47	47	47
48	48	48
49	49	49
50	50	50
51	51	51
52	52	52
53	53	53
54	54	54
55	55	55
56	56	56
57	57	57
58	58	58
59	59	59
60	60	60
61	61	61
62	62	62
63	63	63
64	64	64
65	65	65
66	66	66
67	67	67
68	68	68
69	69	69
70	70	70
71	71	71
72	72	72
73	73	73
74	74	74
75	75	75
76	76	76
77	77	77
78	78	78
79	79	79
80	80	80
81	81	81
82	82	82
83	83	83
84	84	84
85	85	85
86	86	86
87	87	87
88	88	88
89	89	89
90	90	90
91	91	91
92	92	92
93	93	93
94	94	94
95	95	95
96	96	96
97	97	97
98	98	98
99	99	99
100	100	100

(阪大法学) 55 (3・4-1) 1 [2005.11]

金融問題「先送り」の政治行政過程(二)

——一九九〇年代前半におけるアクターの認識と行動——……………上川龍之進……………二……………八七……………三五三

わが国会計基準の国際的調和化と法人所得課税……………田中 将……………二……………一二九……………三九五

我が国における取締役責任論の実質的解釈に関する一考察(二)……………柳伸之介……………二……………一五九……………四二九

中国の株式会社における監事会(監査役会)の構成及びその地位の向上をめぐる

—— 史的背景、現状および改正論議の動向——……………金 錫華……………二……………一八九……………四五五

動産譲渡登記制度の創設とその問題点……………吉田光碩……………三……………四七……………六五一

会社役員解任と組合役員の解任……………山下真弘……………三……………四二五……………六六九

〈ブラック・エンパワメント〉小論……………河田潤一……………三……………四五一……………六九五

ボイズン・ピルと株主平等原則……………吉本健一……………三……………四七三……………七二七

解雇をめぐる理論と実務……………小寫典明……………三……………四八九……………七三三

代襲相続について……………松川正毅……………三……………四一一……………七五五

実業同志会と大阪財界

—— 武藤山治と平生鈺三郎の關係を中心に——……………滝口 剛……………三……………四一三……………七七五

公の営造物の供用関連瑕疵と警察責任

—— 機能的瑕疵防止・除去義務としての実体的警察責任の可能性——

……………高橋明男……………三……………四一六……………三八〇七

アメリカ法における大量被害不法行為訴訟へのクラス・アクションの拡大			
—— 損害賠償クラス・アクションを中心として ——	藤本利一	三・四	一八一
ドイツ新債務法における買主自身の瑕疵修補	田中宏治	三・四	二〇七
EU法における「本源国法原則」とその国際私法上の意義	長田真里	三・四	一二七
ヨーロッパ人権条約における家族形成権・家族生活の保護	幡野弘樹	三・四	二四三
ガリアの英雄とナショナル・アイデンティティ			八八七
—— 第三共和政フランスの歴史教育と国民形成 ——	渡辺和行	三・四	二六三
M・ヴェーバーと現代市民政治論	土居充夫	三・四	二九一
男女共同参画社会と政治			九三五
—— 日本の現状と課題 ——	山口裕司	三・四	三二三
日本における政党政治と腐敗防止	李 相薫	三・四	三三一
アフリカの解放闘争再考			九七五
—— 周辺化された人々にとってのマウマウ闘争の意味 ——	戸田真紀子	三・四	三五三
傷つく兵士			九九七
—— 戦場の被害者 ——	市川ひろみ	三・四	三七五
権利能力なき社團論の現在			一〇一九
—— ドイツ民法典制定過程における議論の再評価 ——	後藤元伸	三・四	三九九
フランス法における建造物責任の機能に関する一考察	下村信江	三・四	四一九
			一〇六三

信託法改正における詐害信託の問題点……………	林 邦彦	三・四	四四一	一〇八五
一九一六年のイギリス輸出入禁止政策と日本外交				
——戦時経済協力と通商・産業利益擁護の狭間で——	森川正則	三・四	四六三	一一〇七
ドイツ新債務法四四四条と企業買収……………	田中宏治	五	一	一一五九
金融問題「先送り」の政治行政過程(二)				
——一九九〇年代前半におけるアクターの認識と行動——	上川龍之進	五	一七	一一七五
我が国における取締役責任論の実質的解釈に関する一考察(二・完)	柳伸之介	五	六一	一二一九
電電公社民営化過程				
——中曽根の改革推進と族議員の政策転換——	尹 爽相	五	九一	一二四九
情報提供活動の合憲性判断とその論証構造				
——グリコール決定を手がかりに——	丸山敦裕	五	一二一	一二七九
株式会社において業務執行・監査は誰のために行われるか				
——中国における国有株問題を素材として——	金 錫華	五	一五一	一三〇九
メーガン法について……………	松井茂記	五	一八一	一三三九
強制的公開買付けの目的に関する立法論的考察……………	吉本健一	六	一	一五五一
団体交渉に関する覚書……………	松中 学	六	三五	一五八五
ドイツ新債務法における引渡前の代物請求……………	小 寫典明	六	六三	一六一三
	田中宏治			

金融問題「先送り」の政治行政過程 (三)

——一九九〇年代前半におけるアクターの認識と行動——……………上川龍之進……………六……………七九……………一六二九

サン・マリノ共和国の法と裁判・序論

——現代に生きる普通法——……………阪上眞千子……………六……………一一九……………一一六九

行政機関の裁量行使についての一考察……………澤田知樹……………六……………一四五……………一一九五

明治憲法と地方警察規則……………小野博司……………六……………一七五……………一二三五

アメリカにおける憲法的名譽毀損法の展開と課題

——「現実的悪意の法理」についての連邦最高裁判所判決を手がかりに——

……………山田隆司……………六……………二〇五……………一二五五

特別寄稿

ドイツ近世都市ケルンの刑法

——特に市民の個人的法益を害する犯罪及び刑法全体の特徴について——

……………林 毅……………一……………一四五……………一四五

淡路国大田文における承久没官地……………田中茂樹……………一……………一七五……………一七五

判例研究

瑕疵担保による損害賠償請求権の消滅時効……………大阪大学民事判例研究会／田中宏治……………二……………二二九……………四八五

翻 訳

ルクセンブルク欧州司法裁判所による法的判断についての比較法メソッド

ヘルマン・フォッフス・ヘールト
長田真里／訳

一 二〇三 二〇三

比較法の目的は何か？ EU内における法の統一の努力

エレニ・ムスタイラ
松田岳士／訳

二 二二九 四九五

——法の統一は最良の解決なのか？——

ギャレス・デイヴィース
長田真里／訳

二 二四七 五一三

——法の可能性と政治の潜在的重要性——

ヨアヒム・ザンデン
松本和彦／訳

二 三二一 一四七一

——さらなる発展と国際法への効果——

科学、決定、行動・予防原則の三つの考察

クリスティーヌ・ノワヴィル
松田岳士／訳

六 一三五 一二八五

韓国公正取引法の特徴とその運用

鄭浩烈
武田邦宣／監訳

六 二五七 一三〇七

資 料

国際私法の現代化に関する要綱中間試案に対する意見

野村美明
長田真里 編

二 二七三 五三九

EU契約法と消費者保護

——二〇〇四年のコミッション通知と二〇〇五年の不正取引手段指令——

平田健治 二 三二三 五七九

その他

巻頭の辞……………三成賢次

三・四

多胡圭一教授 略歴・主要著作目録……………

三・四 四九〇 一一三四

國井和郎教授 略歴・主要著作目録……………

三・四 四九四 一一三八